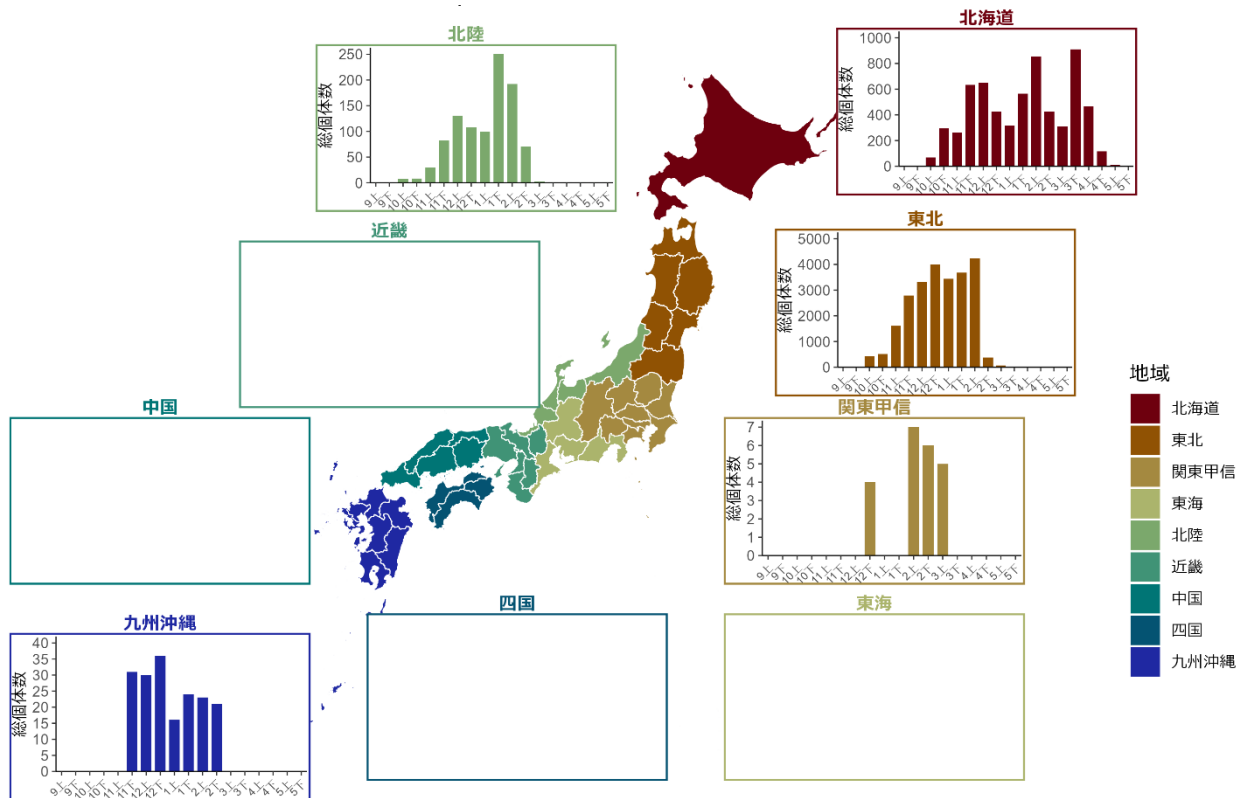


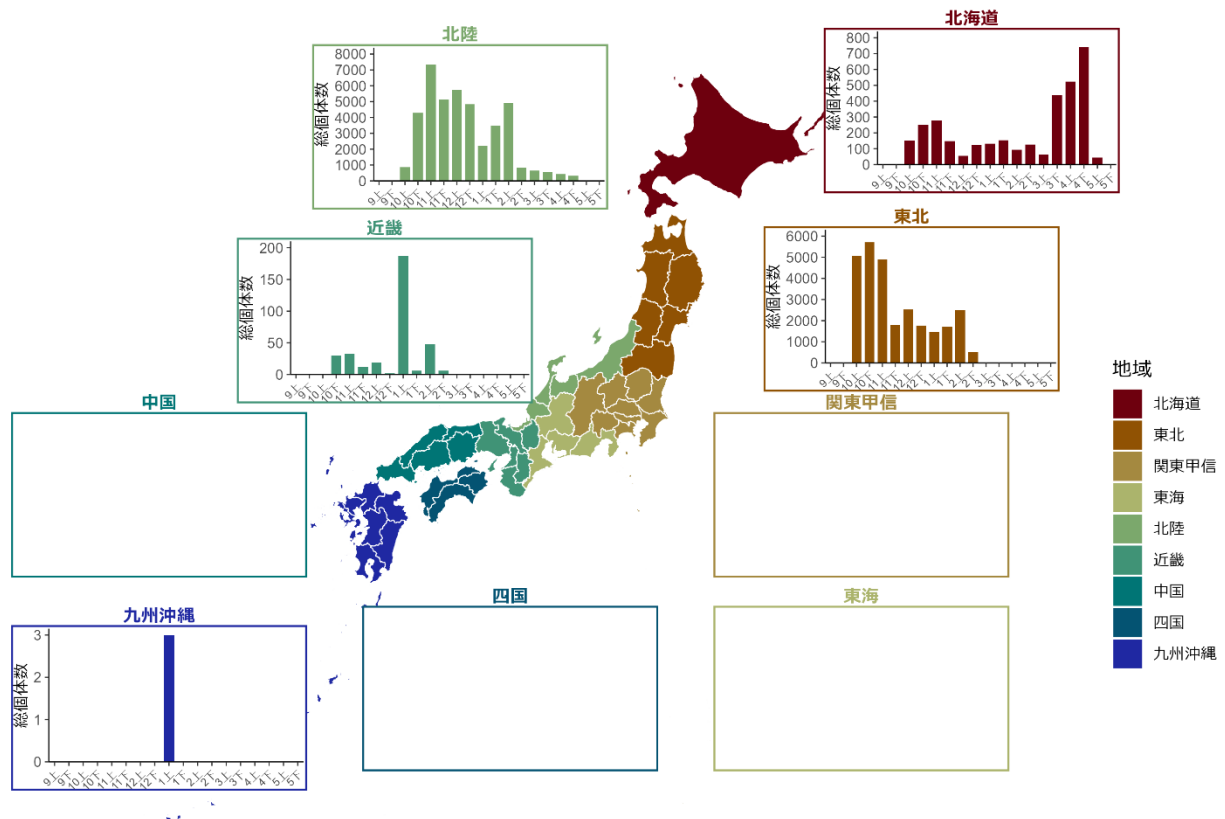
オオハクチョウ

北海道、北陸、東北の個体数が多い。北陸と東北では2月の下旬、一番遅くても3月上旬まで滞在している。一方、北海道では、4月下旬まで滞在している。九州では諫早湾で数十羽が越冬する。



コハクチョウ

オオハクチョウと同じく北海道、北陸、東北で個体数が多いが、オオハクチョウに比べてやや南に分布している。東北では2月下旬まで滞在している一方、北海道と北陸では4月下旬まで滞在している。

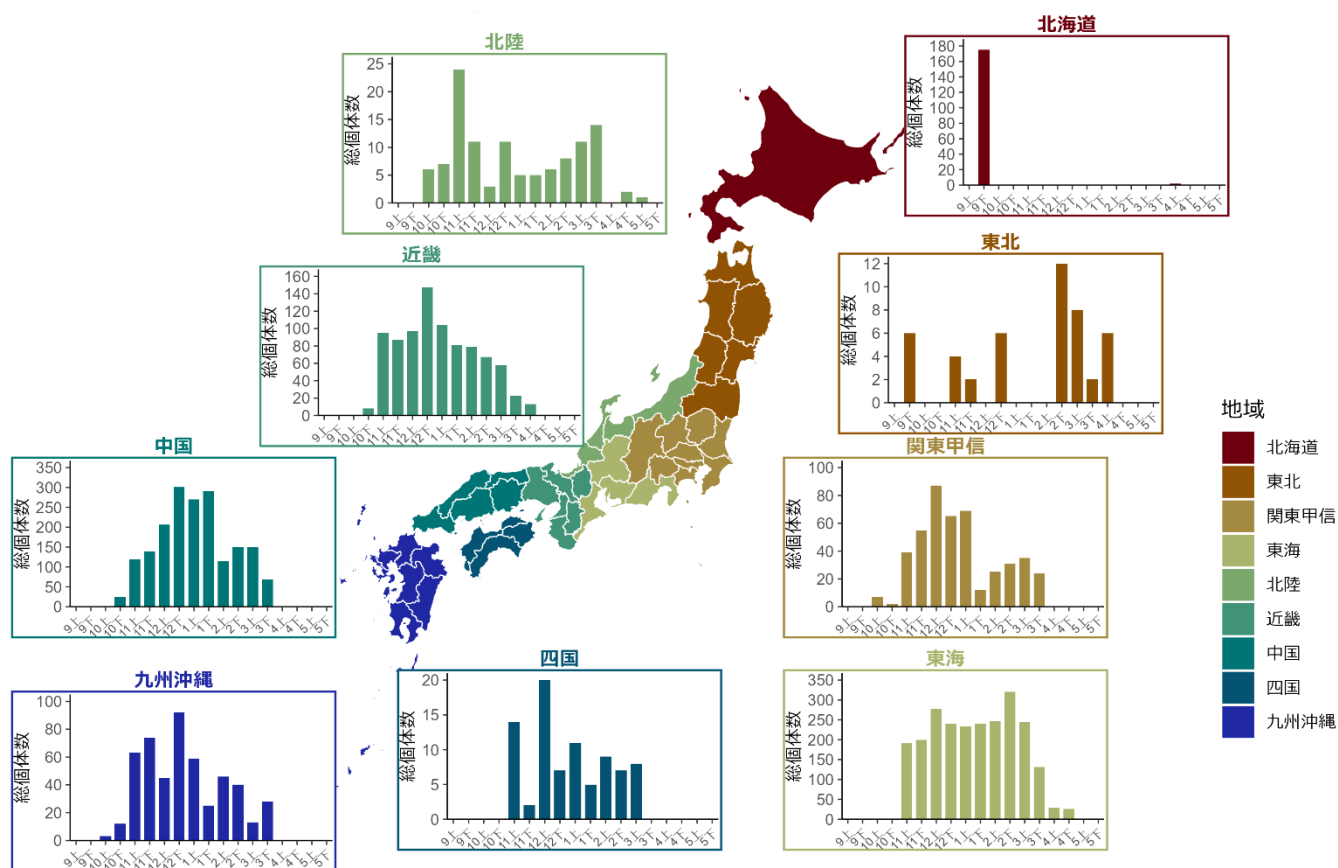


オカヨシガモ

関東甲信以西の地域で記録個体数が多く、特に東海、中国、近畿で多く記録された。これらの地域では、秋期から個体数が増加し、冬期にかけて比較的多い状態が続いた。

近畿および関東甲信では、秋期から冬期にかけて個体数が増加した後、冬期にピークを示し、その後減少する季節変化がみられた。東海では、秋期から冬期にかけて多くの個体が継続して記録され、冬期後半に最多となった後、春期にかけて減少した。

中国および九州沖縄でも秋期から冬期に多くの個体が記録されたが、時期による増減がみられ、冬期後半以降は減少する傾向を示した。四国および北陸では記録個体数が比較的少なかった。東北では記録が少なく、北海道では秋期の特定の時期に記録が集中し、それ以外の時期の記録はごく少なかった。



地域によって個体数の季節変化は異なっていた。北海道では、9月下旬から10月下旬にかけて多くの個体が記録され、特に10月下旬に記録が集中した。その後の記録はごく少なかった。東北は個体数が少ないが、2月以降の春の渡り次期にやや数が増えるようだった。

近畿では10月下旬に個体数が突出して多く、渡りの群れが通過したようだったが、それ以外の時期は比較的少なかった。中国や四国では数が少ないが、12-1月に最も数が増えたようだ。九州沖縄では秋期から春期まで継続して記録され、4月上旬に渡りの群れが通過したため個体数が大きく増加した。



ヒドリガモ

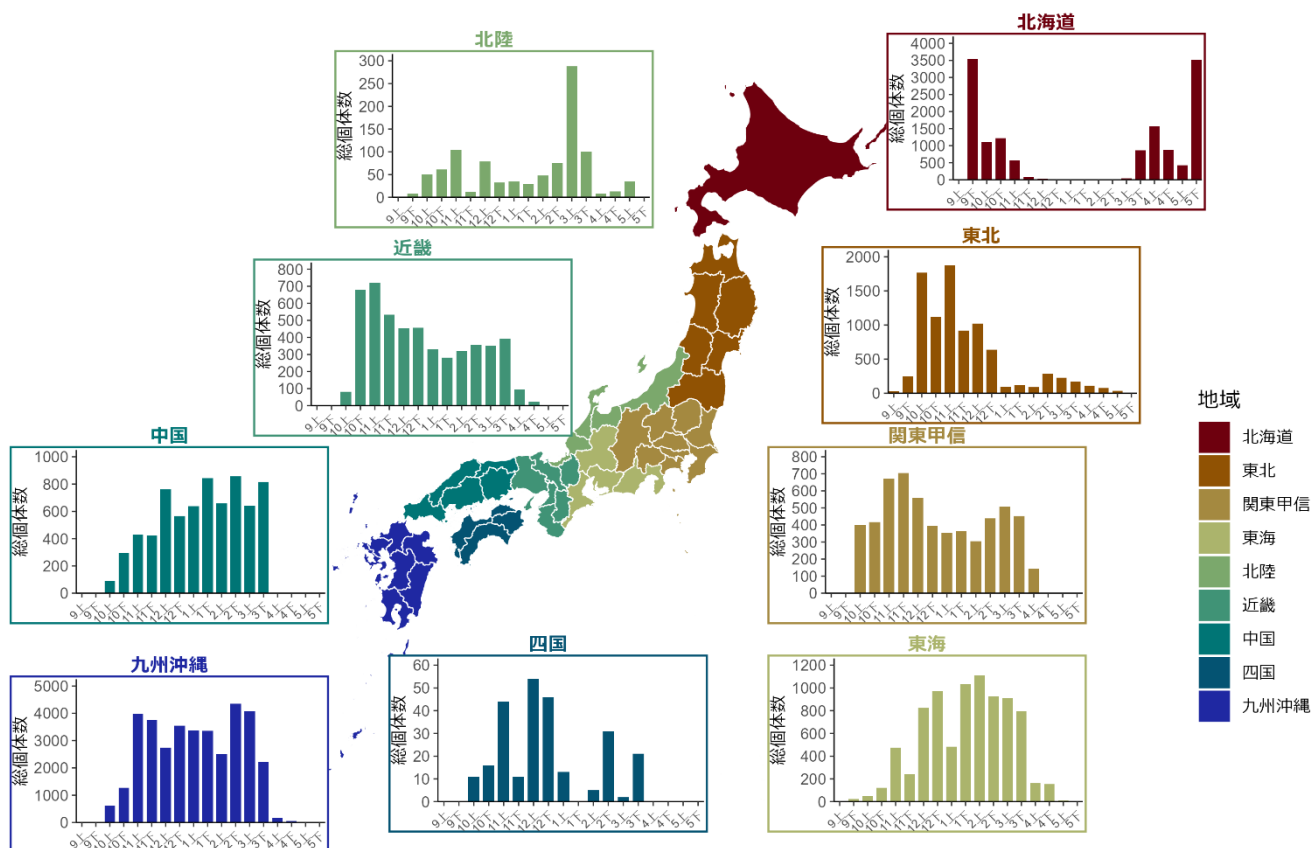
北海道では秋期に個体数が大きく増加し、その後冬期には減少するが、春期にも再び個体数が増加することで、秋期と春期に個体数の増加が見られる二峰型の季節変化を示した。

東北では秋期に個体数が多くなり、その後冬期にかけて減少する傾向が見られた。

関東甲信、東海、北陸では秋期に個体数が増加し、ピークを形成した後、厳冬期にも一定数が維持された。

近畿、中国、四国、九州沖縄では冬期の個体数が特に多く、秋期から冬期にかけて個体数が増加した後、冬期を通して多くの個体が記録された。

このように、北海道や東北では渡り期に個体数が多くなる一方、本州中部以南では冬期に個体数が多くなる傾向が見られた。

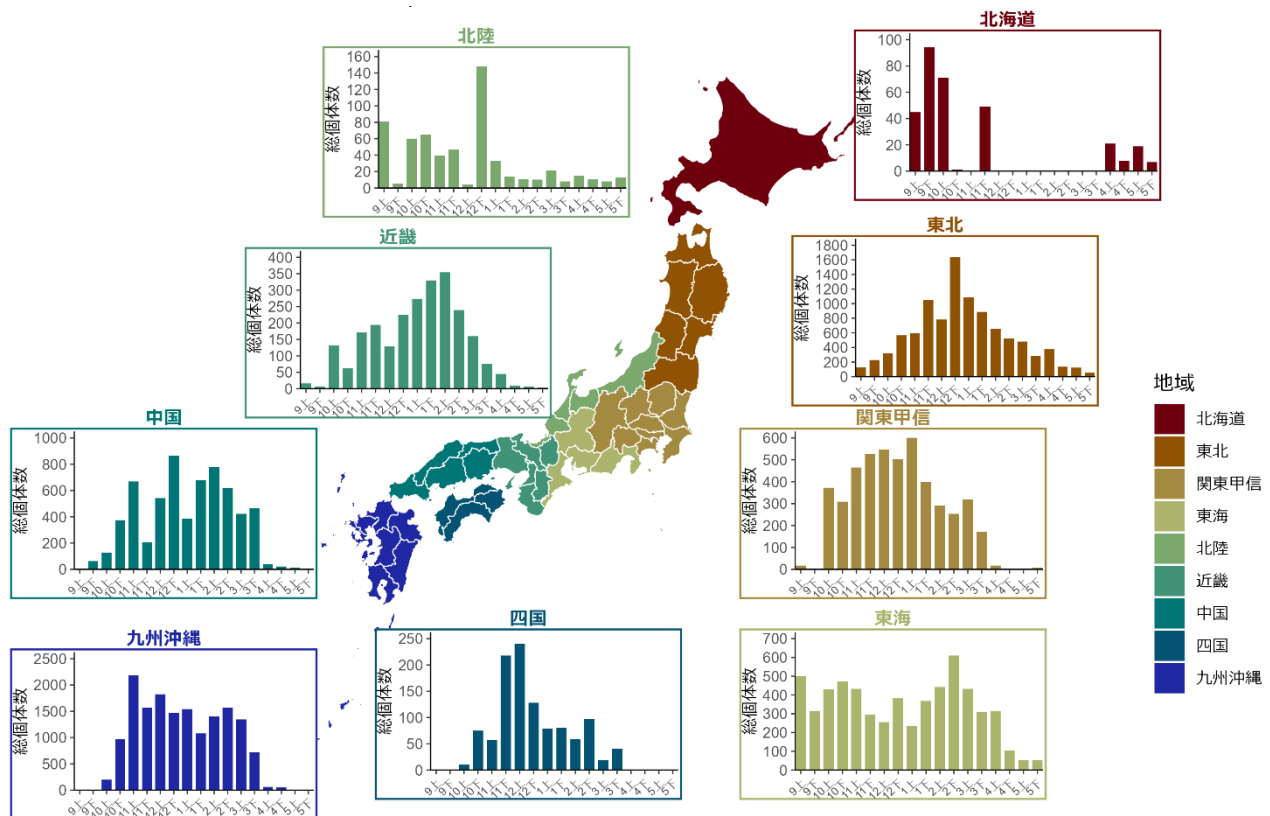


カルガモ

北海道では、記録個体数は秋期に多く、特に9月下旬に最多となった。その後は減少したが、春期にも少数が記録された。

本州以南では、地域によって季節変化が異なっていた。東北では秋期から記録個体数が増加し、冬期前半に最多となった後、春期にかけて減少した。関東甲信、北陸、近畿および四国でも、秋期から冬期にかけて増加し、冬期に最多となった後に減少する傾向がみられた。

東海では秋期から冬期にかけて比較的多い状態が続き、時期による増減を伴いながら春期前半に最多となった後、減少した。中国では秋期から冬期にかけて記録個体数が多かったが、時期による変動が大きく、明瞭なひと山型の変化はみられなかった。九州沖縄では秋期から冬期にかけて多くの個体が継続して記録され、秋期に最多となった後は増減を伴いながら減少し、春期には少なくなった。地域別では、特に九州沖縄、東北および中国で記録個体数が多かった。



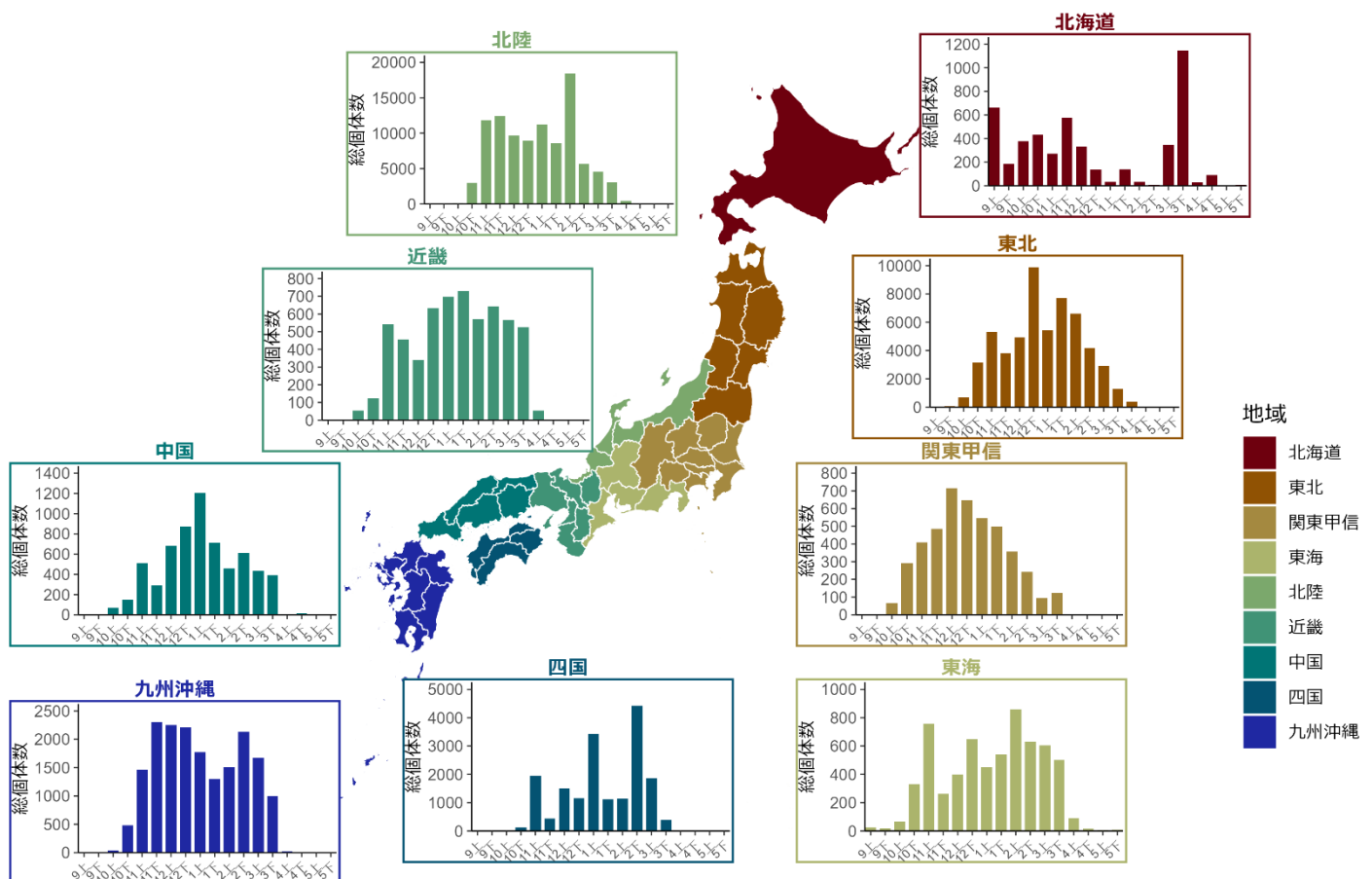
マガモ

北海道では秋期から春期にかけて断続的に記録され、時期による変動が大きかった。秋期にも比較的多く記録されたが、冬期には少なくなり、春期の特定の時期に大きく増加した。

北陸および東北で記録個体数が特に多かった。北陸では秋期に増加し、冬期を通じて多い状態が続いた。冬期後半に最多となった後、春期にかけて減少した。東北でも秋期から冬期にかけて増加し、冬期に最多となった後、春期にかけて減少した。

関東甲信および中国では、秋期から冬期にかけて増加し、冬期に最多となった後、春期にかけて減少する、ひと山型の季節変化がみられた。近畿でも秋期に増加した後、冬期を通じて比較的多い状態が続き、春期に入ると大きく減少した。

一方、東海、四国および九州沖縄では、秋期から冬期にかけて多くの個体が記録されたものの、時期による変動が大きく、明瞭なひと山型の季節変化はみられなかった。東海では冬期後半、四国では冬期の特定の時期に最多となった。九州沖縄では秋期から冬期にかけて多い状態が続き、複数の時期に個体数の増加がみられた後、春期に減少した。



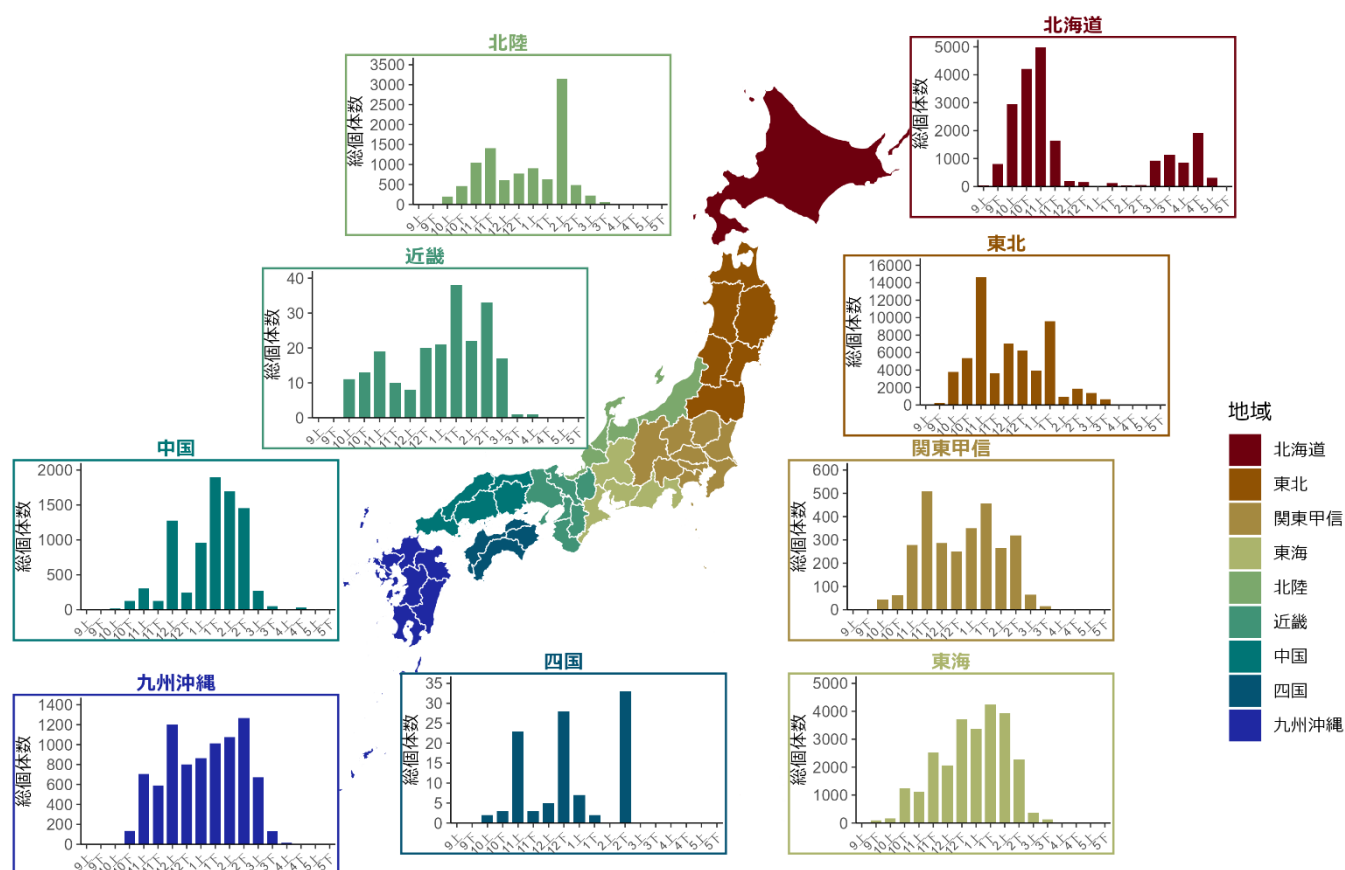
オナガガモ

北海道では秋期に記録個体数が増加し、秋期後半にピークを示した。その後は大きく減少し、冬期前半の記録は少なかったが、春期には再び増加する時期がみられた。このように、秋期と春期にそれぞれピークをもつ二峰型の季節変化がみられた。

東北では秋期に記録個体数が増加して秋期後半に最多となり、その後は増減を伴いながら減少した。また、冬期後半にも一時的な増加がみられた。北陸では秋期から冬期にかけて記録個体数が増加し、冬期後半に顕著なピークを示した後、春期にかけて減少した。

関東甲信では秋期から記録個体数が増加し、冬期には増減を伴いながら比較的多い状態が続いた後、春期にかけて減少した。東海でも秋期から冬期にかけて増加し、1月から2月に多く記録された。その後は春期にかけて大きく減少した。

近畿では秋期から冬期にかけて記録個体数が増加し、冬期に複数のピークを示した後、春期に減少した。中国では秋期から増加し、冬期に複数のピークを示しながら多い状態が続いた後、春期に減少した。九州沖縄でも秋期から冬期にかけて増加し、冬期を通じて比較的多い状態が続いた後、春期に減少した。四国では記録個体数が少なく、秋期から冬期にかけて断続的に記録された。



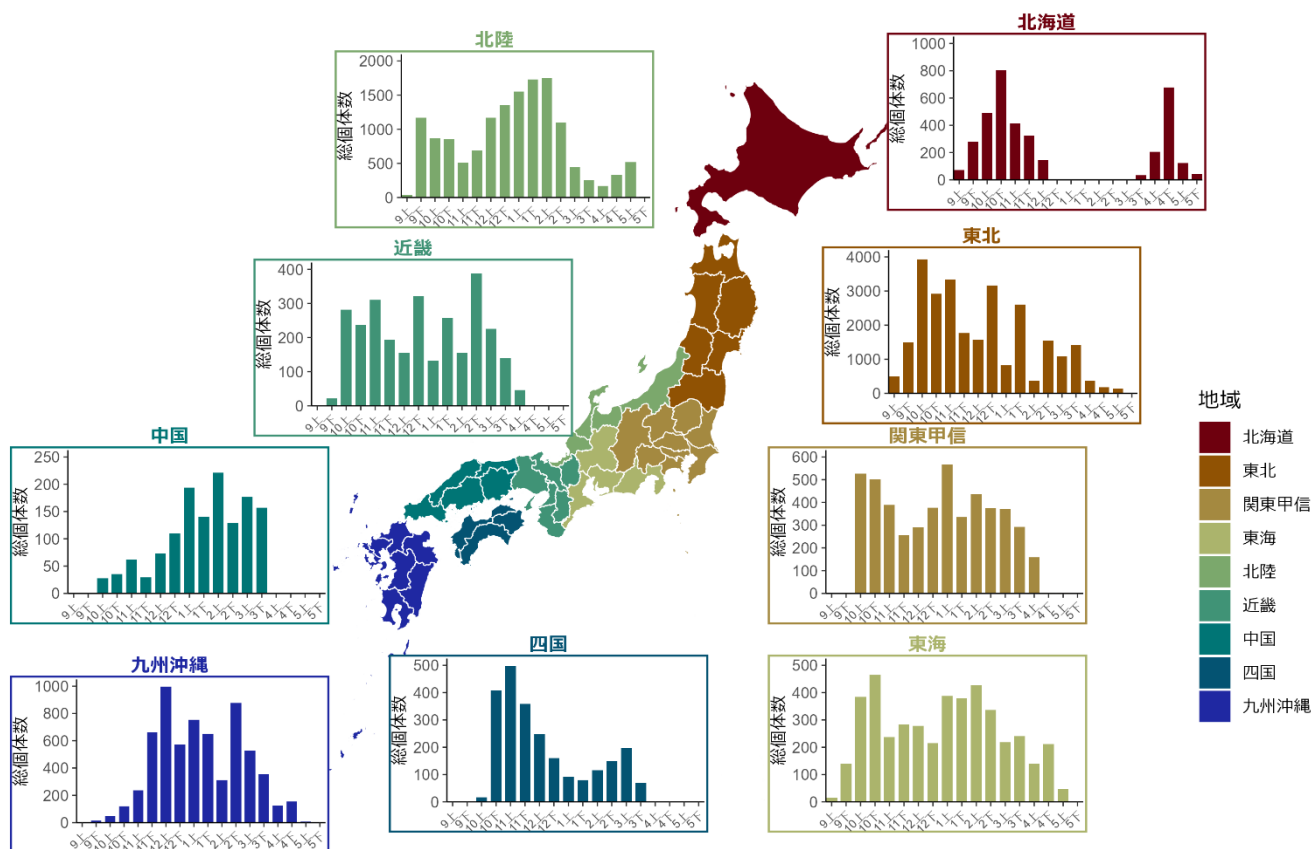
コガモ

北海道では、秋期と春期にそれぞれ記録個体数が増加し、二峰型の季節変化がみられた。秋期のピーク後は大きく減少し、冬期の記録はほとんどみられなかったが、春期に再び増加した。

東北では秋期に記録個体数が大きく増加し、その後は時期による増減を伴いながら、春期にかけておおむね減少した。北陸では秋期に一度減少した後、冬期にかけて再び増加し、冬期後半に最多となった。その後は春期に減少したが、春期後半にはやや増加した。

関東甲信では秋期から冬期にかけて増減を繰り返し、冬期に最多となった後、春期にかけて減少した。近畿でも秋期から冬期にかけて増減がみられ、冬期に顕著なピークを示した後、春期に減少した。東海では秋期に記録個体数が最多となり、その後減少したが、冬期に再び増加した。

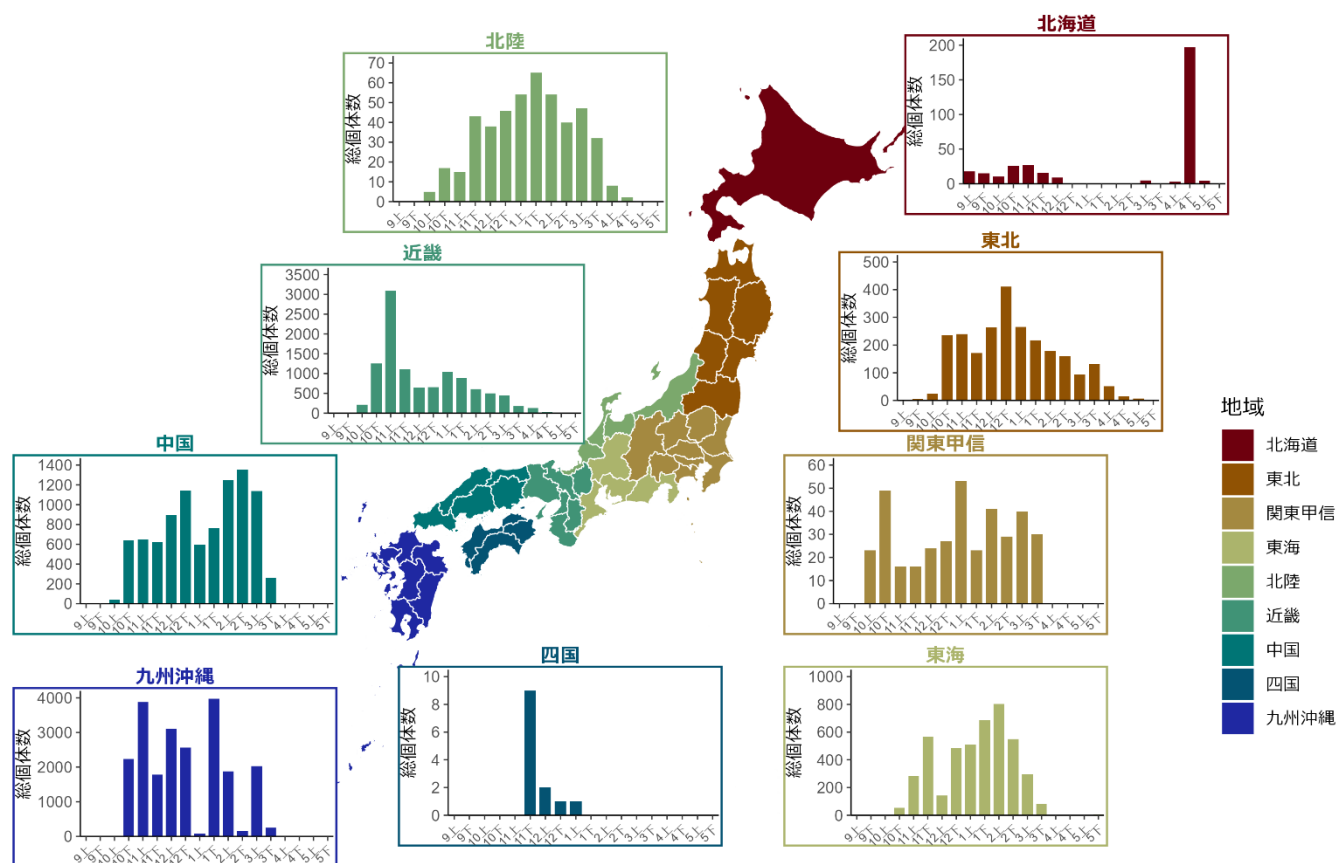
中国では秋期から冬期にかけて記録個体数が増加し、冬期に多い状態が続いた。四国では秋期に最多となった後、冬期にかけて減少したが、その後は再び緩やかに増加した。九州沖縄では秋期から冬期にかけて増加し、冬期に複数のピークを示した後、春期に減少した。



ホシハジロ

北海道では、秋期に少数の個体が継続して記録された後、冬期にはほとんど記録されなかった。春期には記録個体数が急増し、4月下旬に顕著なピークを示した。

本州以南では地域によって季節変化が異なった。東北、北陸および東海では、秋期から冬期にかけて記録個体数が増加し、冬期のピーク後は春期に減少した。中国では冬期後半にかけて増加した一方、関東甲信、近畿および九州沖縄では時期による変動が大きく、複数のピークがみられた。地域間では、九州沖縄、近畿および中国で特に多く記録された。



キンクロハジロ

北海道では、秋期に記録個体数が増加した後、冬期に減少し、春期に再び大きく増加した。春期のピークは秋期よりも顕著であった。

本州以南では地域によって季節変化が異なった。東北では秋期から冬期に比較的多く記録された後、春期にかけて減少した。北陸と中国では秋期に多く記録され、その後はおおむね減少した。関東甲信、近畿、東海および九州沖縄では時期による変動が大きく、複数のピークがみられた。記録個体数は近畿、東海および中国で特に多く、四国では記録がみられなかった。

